



ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 200
November
2009

トピックス

アジア災害情報

2009年スマトラ沖地震（パダン地震）緊急現地調査報告

関係機関との防災協力推進

JICA研修「アジア地域防災文化の普及と定着」コース

お知らせ

客員研究員
(ASEAN-GLIDEプロジェクト)の来日

アジア防災会議
2010の開催

Asian Disaster
Reduction Center
アジア防災センター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通
1-5-2 ひと未来館5F

Tel: 078-262-5540
Fax: 078-262-5546
editor@adrc.asia
http://www.adrc.asia

●アジア災害情報

2009年スマトラ沖地震（パダン地震）緊急現地調査報告

アジア防災センター（ADRC）の茨木徹雄主任研究員及び荒木田勝主任研究員、人と防災未来センター（DRI）永松伸吾研究副主幹は10月5日から7日にかけてインドネシアの西スマトラ州都パダン市と周辺地域を調査しました。調査の目的は9月30日に発生した地震による被害状況把握と、インドネシア政府・州・地方自治体や関連機関の活動状況の把握です。



[ビルの崩壊]

10月5日に調査団は現地災害対策本部があるパダン市内の西スマトラ州知事公舎へ向かいました。パダン国際空港から市内へ向かう途中でいくつもの中高層ビルが被害を受けているのが確認されました。一方で平屋はほとんど被害を受けていないように見えました。知事公舎では多くの国際機関やNGOが詰めかけ、災害対策状況が更新され、調整が行われていました。毎晩ドナー国はコーディネーター会議を開催していきまし、衛星通信システムでTV会議やインターネットが利用可能となっていました。

2日目は地元のアンダラス大学へ行き、被害状況を聞くと共に中央政府から大学が依頼された住居被災度判定調査について情報を得ました。その後パダンパリアマン県の災害対策本部を訪問し県職員の案内で学校被害を視察しました。学校の多くは無柱か本数が少なく、レンガ壁は十分なセメントが使われておらず低品質で耐震性がありませんでした。



[学校の被害場]

3日目には100名以上が亡くなった地すべり箇所を訪問しました。村人によると地震の直後に地滑りが発生しましたが、既に暗くなっていたため避難は翌日になったとのこと。地滑りの直接の原因は地震ですが、それ以前に降り続いていた雨の影響があったと考えられます。



[地滑りの現場]

3日間の現地調査結果として3点を挙げます。

続き

- 1) パダン市では中高層の鉄筋コンクリート造が多く被害を受けた。
- 2) パリアマン市とパダンパリアマン県ではレンガ造の平屋が多く被害を受けた。
- 3) 死者のうち半数程度は山間部の地すべりが原因となった。

今後は被災地でのよりよい復興が求められています。ADRCは様々な機関と協力しながら、被災地域の復興及び防災力の向上に寄与していきたいと考えています。

●関係機関との防災協力推進

JICA研修「アジア地域防災文化の普及と定着」コース

ADRCは、国際協力機構（JICA）からの受託事業として、2009年8月31日から10月2日にかけて「JICA研修アジア地域防災文化の普及と定着」コースを実施しました。この研修は、学校教育を通じた防災知識の普及のみならず、一般市民の防災意識の向上も含め、アジア各国で広く防災を文化として普及、定着させることを目標としています。

研修には、アゼルバイジャン、フィジー、インドネシア、マレーシア、ベトナムの5カ国から、防災局、気象庁、赤十字社等の防災担当者9名が参加し、日本の防災システム、学校における防災教育、コミュニティでの意識啓発活動について講義を受けました。

また、総合防災訓練への参加、火山実験の実施、人と防災未来センターや兵庫県立舞子高校、富士常葉大学の見学を通じて、様々な防災文化の普及方法を学びました。

研修員は日本の防災文化普及の取り組みに高い関心を示し、どの講義、見学に対しても大変熱心に取り組み、研修の最後には自国におけるアクションプランを作成しました。

当研修実施にあたり、快く訪問等を受入れていただきました各関係機関の皆様には、厚くお礼申し上げます。今後とも引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



[研修の様子]

●お知らせ

客員研究員（ASEAN-GLIDEプロジェクト）の来日

日・ASEAN統合基金（JAIF）を活用したASEAN-GLIDEプロジェクトの一環として、先月マレーシア、シンガポール、ベトナムから3名の客員研究員が来日しました。本プロジェクトは、防災のためにGLIDEシステムを利用して、ウェブ上で過去の災害データベースを構築することを目的としています。日本での滞在期間中、様々な防災活動を行っている政府および民間企業を訪問したりし、各国でのGLIDEを利用した災害データベース構築のための研修を受けます。



続き

今回来日したのは、メン・ホン・リン研究員（シンガポール）、ルー・ニョック・ラム研究員（ベトナム）、アズミ・ビン・アタン研究員（マレーシア）の3名で、リン研究員を除く2名は本年12月まで日本に滞在する予定です。

アジア防災会議2010の開催

2010年は2005年に兵庫県神戸市で開催された国連防災世界会議で採択された兵庫行動枠組2005-2015(HFA)実施期間の折り返し地点であるとともに、1995年に発生した阪神・淡路大震災から15年の節目にあたります。

アジア防災会議2010では、アジア各国における兵庫行動枠組の進捗状況や達成度についてレビューを行い、兵庫行動枠組推進のための具体的な課題を整理します。

また、アジア各国の優良な防災への取り組み事例や防災の課題などに関する情報を共有し、アジア地域内の防災分野での協力を進めていきます。

当会議は阪神・淡路大震災15周年記念事業の一環として、50名程度の一般傍聴者を募集しておりますので、ご希望の方はホームページ (http://www.adrc.asia/acdr/2010_index_j.html) よりお申し込みください。

問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は editor@adrc.asia までEメールをお寄せください。